



水尾 春翔 (みずお はるか) 菅生学園 2年生

作品名：「はしれはしごしゃ」を読んで

図 書：はしれはしごしゃ

「はしれはしごしゃ ゴー ゴー ゴー。」と、いさましく、時にはゆっくりと町中や、野山をはしごしゃが走り抜けます。

わたしは、この本を読む前は消防車は、火を消すためだけに活やくしている車だと思っていました。ところが、本を読み進めていくと、高い木の枝にひっかかり下りられなくなったねこを、はしご車に乗った消防士さんが助けるというお話だったのです。動物を助けるために消防隊員が出動することは、実際にもあるようです。たとえば、二〇〇三年一月には、北九州市で電線からたれたつり糸に引っかかったユリカモメを、はしご車を出動させて救助したこともあると聞きました。

このように、はしご車は消火活動だけではなく、最大四十メートルものびるはしごの特徴を活かし、様々な高所での動物などの救助にもたずさわっているのだなあと思いました。

わたしは、大きな赤い車体の消防車が大好きです。それは、わたしたちの生活をおもに火災から守り、活やくしているからです。消防車が、ゆっくり走っている時、わたしは手をふります。すると、中にいる消防士さんたちが、やさしい笑顔で手をふり返してくれます。わたしは、とてもうれしい気持ちでいっぱいになります。

つい先日、東京消防庁の秋の火災予防運動のポスターを見かけました。そして、近所の小宮出張所では消防服を着て、消防車の前に立ち写真を撮りました。これからは、空気がかんそうして火災がおこりやすい時期だと消防士さんが言っていました。

一人一人が、火事をおこさないように注意して生活していかなければいけないと思いました。もうすぐ、夜おそくに「火の用心！！」と木片をたたく音が聞こえるころです。木々の枯れ葉も落ち、寒い冬がやってくるのです。